



# 工高タイムス

北海道旭川工業  
高等学校新聞局  
〒078-8804  
北海道旭川市緑が丘  
東4条1丁目1-1  
発行人(局長)  
村岡 良祐  
(工業化学科3年)

## 建築科

### 思い描く住まいをプランニング 設計には想像力が大切 建築士と交流を深める

北海道建築士会旭川支部青年・女性委員会主催のワークショップ「思い描く住まいをプランニングしてみよう」が8月1日に建築科製図室で行なわれ、建築科の1年生3人、2年生3人、3年生2人の計8人が参加し、7人の講師からアドバイスを受けた。



アドバイスをもらう飯田君(建1)

ワークショップの前半は講師の自己紹介と事業の目的、グループトーク、ワークショップを行ない、後半は一軒家の間取りを考えるリノベーション計画とその内容についての発表をした。

増田光希君(3年)は「友達に誘われたのと専門学校に進学するので、面接や進学後に役立つと思い参加した。実際に図面を描いてみて、気づくことが多く、想像力が大切だと知った。最初は広い空間

だと思っていたが、家具を設置していったらスペースが狭く、壁の位置が決まっている所があったので構成が難しかった。特に収納スペースの場所を決めるのに苦労した。一か所に集中していて視野が狭くなってしまい、トイレを設置していなかったため、もっと視野を広くしたい。就職は設計の仕事に就きたいと思っており、今回設計事務所の方々から業務について説明してもらい理解できた」と話した。

山田夕輝君(2年)は「将来は建築業界に就職したいので、業界の方と交流を深めるために参加した。講師の方とたくさん交流できたので良かった。リノベーションでは一軒

## 情報技術科

### CG体験に27人が参加 ポケモンのコイルを作る

情報技術科は中学生を対象にしたCG体験授業「ポケモンのコイルを作ってみよう」を8月8日に4階データ処理実習室で開催した。講師は情報技術科の課題研究班「情報技術科活性化計画」の3年生9人が務め、中学生27人が参加した。内容は「Blend



中学生に教える久保心湊君(左奥)

ンを使い、球体の左右にU字型の磁石と頭と足の部分にネジを付け、着色した。

香林秀明君(情3)は「体験に来た中学生全員の反応は良かった。皆の知っているポケモンを作ったから楽しそうだった。苦労したことは人に教えられないように自分も理解しないといけないから大変だった。皆が協力して準備など早く終わらせることができたので良かった」と語った。

## 創作劇を上演 演劇部長 福井一在君(情3)



趣味は野球観戦

演劇部は9月25〜28日に旭川市市民文化会館で行なわれる高文連上川支部演劇発表大会に出場する。上演作品は渡辺慶太君(情3)が脚本を書いた「胡蝶の夢」。高校生の舞香が現実と夢、命と向き合う選択の物語。渡辺君は工高祭後から脚本を作成し1か月ぐらいで完成させた。

部員は14人。今回からキャラクターシートを使って、セリフから演じる役の性格や特徴などを読み取っている。そして、セリフがないときの動きや仕種をイメージした練習では、セリフのイントネーションを意識して、セリフの間は何をすれば良いのかを考えながら、自分が役になりきって演じている。

3年生は今回が最後の大会となる。今後演劇をする機会があったとしてもメンバーが違うので、悔いの残らないように部員全員で楽しかったと言えものにしたい。

## ものづくり コンテスト

### 「緊張と焦りが出た」 来年は順位を上げる

#### 電子機械科

#### 自動車整備部門

電子機械科2年生の伊藤巧君と鈴木雅也君は8月5〜6日に札幌市の専門学校北海道自動車整備大学校で行なわれ



自動車整備部門に出場した鈴木君(左)と伊藤君

た第25回高校生ものづくりコンテスト全国大会北海道ブロック大会自動車整備部門に出場

伊藤君は「1学科試験では勉強していない範囲も出題され、分からない部分が多かった。自動車整備士3級のすべての範囲から問題が出題されるため対策ができていなかった。緊張と焦りが出て自分の力を出せなかった。初日はぎやかな雰囲気だったが、大会本番では自動車に携わる人が大勢見学に来て独特な雰囲気だった」と話した。

鈴木君は「とにかく緊張した。事前の勉強量が多く、大会本番では一人で作業するのでとてもプレッシャーを感じた。練習していない作業もあり、とてもパニックになった。来年も出場するので自動車整備士3級の勉強をし、作業中にもっと声を出して順位を上げたい」と話した。

し、伊藤君は13位、鈴木君は11位だった。

伊藤君は「学科試験では勉強していない範囲も出題され、分からない部分が多かった。自動車整備士3級のすべての範囲から問題が出題されるため対策ができていなかった。緊張と焦りが出て自分の力を出せなかった。初日はぎやかな雰囲気だったが、大会本番では自動車に携わる人が大勢見学に来て独特な雰囲気だった」と話した。

鈴木君は「とにかく緊張した。事前の勉強量が多く、大会本番では一人で作業するのでとてもプレッシャーを感じた。練習していない作業もあり、とてもパニックになった。来年も出場するので自動車整備士3級の勉強をし、作業中にもっと声を出して順位を上げたい」と話した。



## 工具箱

私は7月下旬から履歴書を書き始めた。今年から履歴書はエクセルで作成するようになったが、パソコンが苦手な平日までに終わるか不安だった。クラスメイトと分らないところを教えあって完成させることができた。私は綺麗に字を書くのが苦手なので手書きだったからかなり時間がかかると思っていたが、友達のアドバイスで自分の考えや気持ちを書くのが苦手な、志望動機を考えるのに苦労した。最初はどのような内容を書けば良いかわからなかった。友達の志望動機を参考にさせてもらった。何を書けば良いかアドバイスをもらったりした。書き始めるとうまくまとまらず文章が長くなったが、新聞局の記事を普段から書いていたおかげで、自分で文をすぐ削ることができた。新聞局での成果を発揮できてうれしかった。▼私は5月に行なわれた危険物取扱者の試験で乙種第3、6類に合格し、これで乙種全類を取得できた。消防署から賞状と副賞の図書カード3000円分をもらった。買ったかった本が6000円とかなり高いため買うのを諦めていたが、この機会に図書カードを使ってほしい本を買うことにした。本を購入してきたのでうきうきで家に帰っていた。その道中で図書カードを出し忘れ、6000円をすべて自腹で払ってしまったことに気が付いた。本を手に入れたうれしさと、自腹で払った落ち込みが混ざって複雑な気持ちになった。(化3村岡)

### 履歴書作成

# 手書きからエクセルへ

## 志望動機 文章の構成に注意

就職を希望する3年生は夏休みを利用して履歴書を作成した。今年から手書きではなくエクセルを使って作成するので、これまでのように何回も書き直しをする必要がなくなった。

工業化学科の履歴書作成は「行なわれた。手順はまず企業7月下旬から情報実習室Aで」を調べ、志望動機を考える。

次に必要事項や志望動機をエクセルに打ち込み、先生方の添削を受けて訂正して完成する。管内の企業を受ける七田佑磨君(化3)は「志望動機を書くのに苦労した。黒川朋寛先生や安藤卓也先生が厳しく点検してくれたので、自分の思うように書いて良かった。黒川先生から職場見学に行ったりパンフレットを見たりすると志望動機が書きやす」とアドバイスをもらった。部活動や資格取得にしっかりと取り組んでいたため履歴書に書け、全体的に見栄え良くまとめることができた」と話した。また先輩に「資格はしっかりと取得し、志望動機は文章の構成を変えると意味が変わってくるので気を付けてほしい」とアドバイスした。

電気科の履歴書作成は7月下旬から情報実習室Bで行なわれた。道内の企業を受ける向井陽生君(電3)は「エクセルでの作成は修正がすぐにできて良かった。志望動機が長すぎると合わせるのが難しかった。」



志望動機を履歴書に書きこむ山本健人君(化3)

### 吹奏楽部

## 「楽しんでもらえた」演奏する姿に感動

吹奏楽部は7月27日に旭川市民文化会館大ホールでサマーコンサートを開催した。演奏した曲は「バレエ組曲『青銅の騎士』より」「テトリス」

「まつり」「ダイヤモンド」「スターライトパレード」「残酷な天使のテーゼ」「川の流れるように」「勇気100%」「学園天国」まで幅広い年代に向けた曲をアンコールを含め9曲演奏した。

受験先について社会での役割をうまく書け、訂正も全然なかったのが良かった。細田一輝先生に高校で頑張ったことは面接でアピールして、志望動機では入社した後に自分が

取り組みたいことを書くことと良いとアドバイスもらった」と話した。また先輩に「履歴書には早くに取り掛かり、資格はたくさん取得した方がいい」とアドバイスした。

印象を与えたい」と話した。旭川在住の40代女性は「5曲は聞いたことのある曲だったので親しみやすく、一生懸命に演奏している姿に感動した。人数が少ないとは思えないほどの迫力があって会場が音楽に包まれていた。一人ひとりが楽しく演奏している姿にひかれ見ているこちらまで楽しくなってきた。また来年も来たい」と話した。

### 職場見学

## 会社の雰囲気を知る 工場の施設設備を見学

受験前に職場見学へ行った3年生に取材した。

山本健人君(化3)は8月1日に千葉県の丸善石油化学株式会社を見学した。「工場設備やナフサを加熱している様子を見学した。工場全体の大きさや会社の雰囲気、仕

事内容が分かって良かった。社員の方々は和やかで、仲が良く感じた。就職に向けてボーラー技士二級や高圧ガス製造保安責任者の資格取得に向けて頑張る」と話した。

後藤拓人君(電3)は8月7日に東京都の東京地下鉄株式

式会社を見学した。「インターシップで鉄道関係の企業に行くとこの職種に興味湧いたのと、電気工事士として働きたいと考えていたので就職しようと思った。作業現場や点検設備を見学して仕事内容や求人票に書かれていないことを知れて良かった。授業で電気知識をさらに増やし、持っている資格を取得して働く準備をしたい」と話した。

平野真希君(機3)は7月28日に市内の日進設備工業株式

式会社を見学した。「インターシップで見学して、就職しようと思った。社員が業務内容だけでなく、日常の会話もしている印象だ。エアコンを取り付けている現場を見学し、実習で自分がしたことのある内容や自分が知らない工程もあり、業務全体を知れたので良かった。普段の授業をしっかり取り組んで、その知識や技術を就職してから生かせるように頑張る」と話した。



正弦定理の解説を聞く3年生

### 夏季進学講習

## 真夏日に4人参加 適した答え方を学ぶ

数学の進学講習が滝沢英樹先生を講師に7月24日から2日間の日程で開かれた。30度を超える真夏日の中、3年生4人が参加した。講習で生徒は「数と式」や「集合と命題」「2次関数」「図形」などの演習問題を解き、解答を確認した。角尾慎君(機3)は「自動車整備について学びたいので、旭川高等技術専門学院に進学したいと考えている。入試科目が数学Iなので受講した。入学後は自動車整備の知識が必要だが、一番学びたいことは技術だ」と話した。



一生懸命に演奏する吹奏楽部の皆さん

長谷川悠斗部長(機3)は「司会が入るタイミングや曲の入れ替わりのリハーサルしたので緊張がほぐれスムーズにできたが、ホール練習で指示されていたことが本番でできなかったことがあった。部員たちは楽しく演奏していたのでその雰囲気がお客さんにも伝わって楽しんでもらえた。良かった。C編成で出場するコンクールでは少人数でも迫力のある音を届け、多くの人に良い」と話した。

旭川在住の40代夫婦は「7曲は知っている曲だったこともあり、親しみを持って聞けた。吹奏楽部は少人数ながらも、力強く演奏する姿が心に打たれた。終始観客が拍手を送っていて、良い雰囲気を出せていた」と話した。